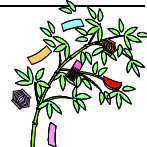


研究所だより

第351号
2015年7月3日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ささの葉さらさら のきばに揺れる お星様きらきら 金銀砂子
五色の短冊 わたし書いた お星様きらきら 空からみてる”



～半夏生～

7月2日(木)は「半夏生」でした。夏至(6.22)の頃から11日目を指すようです。「半夏(はんげ)というサトイモ科の薬草が生える頃ですよ。」ということを知る雑節のひとつです。半夏(が)生(える)から「半夏生」と呼ばれている訳です。この半夏という植物が生える頃までに田植えを終わらせないと、お米の収穫量が減ってしまうとコメ農家の間では昔から言われていたそうです。

このところ梅雨らしい天気が続きますが、各学校では雨にも負けずプールからは子どもたちの元気な歓声が聞こえてきます。沖縄ではすでに梅雨が明けたようですが、高知県の週間予報を見ると雨マークが続き、期待できそうもありませんね。快適に梅雨を乗り切れるように色々な対策をしておきたいものです。



☆教師のメンタルヘルス

今、心身の不調をきたす教師が急増しています。多忙化による疲労の蓄積に加え、多様化する児童生徒の問題行動への対応に追われて自信を失い萎縮したり、管理強化や成果主義の導入によるゆとりのない勤務状況やサービス化社会の進展のなかでの保護者の過大な要求、世論やマスコミの非難や攻撃などのストレスにさらされていることが背景にあると考えられています。

1. 深刻化する教師のメンタルヘルス

社会、家庭、および学校の変質のなかで、教師のメンタルヘルスはきわめて深刻な状況にある。2015年1月に文部科学省が公表した「平成25年度公立学校教職員の人事行政状況調査の結果」によると、精神疾患による病気休職者数は5078人(全教育職員のうち0.55%)と、ここ十年余りで倍増している。なかでも、教師は持続的な集団への対応を迫られる点で、困難度がより高いと思われる。たえず個と集団とのバランスをとりながら、子どもの変化や保護者の要求を敏感にとらえることが求められる。また、児童生徒、保護者との関係は少なくとも一年間は継続される。医師やカウンセラーと違い、お互いに相手を代えることができないため、人間関係がこじれると身動きがとれなくなってしまうケースも少なくない。

2. 保護者対応のストレスとその予防

(1) 保護者対応の基本：信頼関係の構築から

保護者とトラブルにならない、よりよい関係を築くためには、日頃からの信頼関係がとても重要である。しかし、教師と保護者の信頼関係は、一般的な信頼関係とは違う。本来、信頼関係とは相互作用である。しかし、教育現場でいう信頼関係は、相互作用ではなく、教師の行為や態度によって子どもや保護者が教師を信頼し、はじめて成り立つ一方通行の関係性と考えべきである。つまり、教師の行為や態度が常に先にあり、信頼するかしないかは、子どもや保護者の側にある。一昔前までは、教師が子どもに対する不信の感情や言動を見せても、保護者は必ずしも教師に対して不信の感情を表出しなかった。しかし、近年の保護者は教師の言動に対する見方は厳しく、不信の表出はトラブルにつながる。そのことが「教師のストレス」の一因にもなっていることも事実である。ここで重要なのは考え方の転換である。一昔前の教師と保護者の関係が本当に正しかったのか問いたい。一昔前でも、やはり信頼される教師は、子どもに不信の感情は表出せず、どんな子どもに対しても真

摯に対応する教師の姿であったと思う。その意味からも、教師の側が「思ったことが言えないからストレスになる」といった考え方は改めなければいけない。教師は、常に子どものよさを探し求め、子どもが失敗しても何度でも許し、子どもの成長を認めてあげる存在でなければならない。それが信頼される教師の姿である。

(2) なぜ保護者とトラブルになるのか：すべては初期対応の失敗

トラブルの事案を確認すると、むずかしい保護者とわかっていながら、学校側が何のプランも持たずに初回面談や電話対応に臨んでいる。これでは、どんな保護者であってもうまくいくわけがない。保護者対応(電話・面談)をするときは、必ず管理職と相談し、プラン(計画)を立て、シミュレーション(模擬)を行い、ゴール(落としどころ)を設定しておく。この流れで確実にを行うことで、トラブルではなく話し合いになっていく。初期対応はまず「話を聞く」ところから、「保護者の言葉」をていねいに聞く。そこからすべての始まりである。

(3) むずかしい保護者の対応—認めたらうで、対応を変える

保護者対応で大きなストレスになる要因は、むずかしい保護者への対応である。特にむずかしい保護者について大きく4つのタイプに分け、それぞれの特徴やトラブルイメージ、対処方法を知ることによってストレスの軽減につながる。～タイプ別の対応～

①感情型

- ア.表現の特徴：怒りを爆発させる
- イ.イメージ：攻めてくる
- ウ.対処の考え方：冷静な態度で、相手の感情を受け止める。しかし、受け入れない。

②論理型

- ア.表現の特徴：理性的に理詰めで迫る
- イ.イメージ：責めてくる
- ウ.対処の考え方：相手のプライドを刺激せず、感情的でなく、論理的に示す。

③気質・性質型

- ア.表現の特徴：独特の考え方を示す
- イ.イメージ：迫ってくる
- ウ.対処の考え方：相手を絶対に否定しない。裏付けや根拠ある事実や実例を示す。

④病気型

- ア.表現の特徴：否定的な表現
- イ.イメージ：引き込む
- ウ.対処の考え方：一歩ひいて、客観的に受け止め、解決策を示す。

(4) おわりに

一昔前の保護者対応は通じない。若者よりも40歳、50歳代の休職者が多いのはそのあたりに起因していることも想像できる。よく若いころ先輩の先生方から言われたことがある。若いときは「保護者から可愛がられなさい」、中堅になったら「保護者から相談される人柄になりなさい」、ベテランになったら「保護者の相談にこたえられる技能をもちなさい」。ぜひ、このことを各現場の若い先生方をはじめ諸先生方に伝えたい。と述べています。

—引用文献—

日本教育評価研究会「指導と評価」

兵庫教育大学教授 新井 肇

『教師のメンタルヘルス—その実態と課題』ほか

千葉県養護教育センター所長 植草伸之

『カウンセリングテクニックで極める教師の技 保護者とうまくつきあう40のコツ』ほか

6月17日（水）下川口小学校で土佐清水市へき地複式教育研究会小学校部会研修会が開催されました。下川口小学校では、小規模校が故のデメリットを克服し、メリットを最大限に生かす授業づくりに取り組んでいます。研修会では「ひとり学び、とも学び」を中心とした取組の一端を垣間見ることができました。



24日（水）には清水小学校で高知県教育委員会教育課程（算数科）拠点校事業の研究発表会が開催されました。清水小学校では、平成22年度から3年間「新教育課程拠点校事業」、平成25年度から3年間「教育課程拠点校事業」の指定を受け、今年度がちょうど3年目の研究発表となりました。通算6年間算数科の授業を「言語活動」をキーポイントに「清水小学校の授業スタイル〈つかむ・自力解決・学び合う（練り合い）・ためす・まとめる〉」を確立し、深め・発展させてきました。また、この3年間清水小学校の研究を支えてくださった文部科学省教育課程調査官の笠井健一先生にはいつもあたたかいご助言と適切にご指導をいただき、清水小学校の研究だけでなく本市の教育を後押ししていただきました。また、笠井先生は複式授業にも精通しており、清水小学校以外の学校へも足を運びご助言ご指導をいただいております。学校の規模に関係なく、各校が授業のスタンダード〈めあてを明確に示し、ひとり学び、とも学び、まとめる〉を確立し、教師のスキルアップと学力向上に取り組んでいます。

～笠井調査官の講話から～

“**守破離**”（武道や茶道などの日本古来の『道』文化が発展、進化してきた創造的な過程のベースとなっている思想）

－先生の授業の成長－

○分かりやすく教えて練習させる授業ができる

- ・笑顔で ・興味をひく導入 ・動きのある提示 ・具体物を用いて説明する
- ・子どもも具体物を用いて考える・変化のある繰り返し練習（真似して、ペア等）
- ・即時評価「おいしい。ここだけ頑張ればいい。」「できた。素晴らしい。」

○【**守**】（基本）子どもたちに考えさせてから始める授業を行うことができる。

- ・問題解決型の授業のスタイルを知っている。
- ・問題、学習のねらい、見通し、個人解決、練り上げ、まとめ、練習
- ・一時間一枚の板書
- ・「問題」と「学習のねらい」が違うことを知っている。
- ・「学習のねらい」に正対した「まとめ」がかける。

↓

- ・子どもたちが考えたくなるように導入を工夫する。
- ・「発表会」で終わらず「まとめ」もある。

○【**破**】（応用）先生の支援により子どもたちが適用問題でよりよく解決できる授業ができる。

- ・問題解決型の授業を工夫できる。
- ・みんなが答えを出せるための見通しの持たせ方を知っている。個人解決で手が止まっている子どもが多い時の対処ができる。
- ・個人解決の時の子どもの様子から、練り上げの時の子どもの発言順を考え、新たな考えを学び合う授業ができる。

- ・発表の際、発表した考えにつなげることができる。（図で考えたことと、式で考えたコツをつなげられる）
- ・ねらいにあう適切な適用問題を考え、子どもを評価できる。

○【**離**】（独自性）子どもたちが主体的に考え合い、高め合う授業ができる。

教材研究をして、この時間に、どんなつまづきがあるか予想していて、そのつまづきがある場合、どのような支援をすればいいか、知っていて、そういう経験もある。子どもの様々な発言に応じた本質的な問いが言える。

- ・抽象的な説明をしている子ども
- ・上手に説明できない子ども…

子ども同士が積極的に考えることが好きで、お互いの話を聞き合い、つなげていくことで、新しいことが発見できることを先生と一緒に楽しんでいる。



－土佐清水市内小学校6年生交流会（6月25日）－

この交流会は、市内8校の6年生が一堂に会して、少人数では経験できない大人数集団の雰囲気や行動様式になれ、より多くの仲間と関わり合いを持ち、互いの理解を深め集団で活動する楽しさ意義を体験すると共に、コミュニケーションや協調性等をよりいっそう身につけることを目標に、松井浩之先生（SC）を講師にお招きして開催されました。松井先生の気合いの入った指導はいつ拝見しても圧巻で、ピシッとします。最初に今日の目的は「自分から関わる。協力は強力。仲間と一緒にやることでできないこともできるようになる。」と挨拶し、先生の指導のもと仲間づくりを中心とした活動へと全員がのめり込んでいきました。閉会行事での児童の感想では「知らない人がいたけど、ジャンケンゲームやタイタニックゲームが楽しかった。中学校へ行っても今日のように楽しくやっていきたい。」と力強く語ってくれました。最後に松井先生からは「みんなが協力してやろうとしていたことが伝わってきた。本当の仲間とは、苦しい、つらい時に力に（声をかける）なってくれる人。そんな仲間になれ。」と熱いエールを贈ってくれました。



～スキルアップ講座のご案内～（申込締切：7月10日）

第1講座《プレゼンテーションソフトを使った教材・資料づくり》

○日時：7月27日（月）14：00～16：45

○会場：清水中学校 パソコン教室

第2講座《PAの手法を取り入れた人間関係づくりの講義と演習》

○日時：8月11日（火）13：00～16：45

○会場：清水中学校 格技場

